

第 1 分散会リポート

① 退教互とともに「現退一致」で取り組んだ 2025 参院選の活動

佐藤淳一（岩手県退教）

② 江戸川区教職員組合友の会について ～現退一致で組織強化・拡大を目指して～

飛田邦子 平永由美子（都退教）

③ 組織拡大・強化と愛知退教連の目的

高羽孝史（愛知退教連）

④ フードバンク奈良・スクールドライブのとりくみについて

小南昌紀（奈良高退教）

⑤ 島根原発差し止め訴訟の現状と今後の反原発闘争

後藤 譲（鳥取県退教）

⑥ それだけはやめてください

鳥家治彦（山口県退教）

退教互とともに「現退一致」で取り組んだ 2025 参院選の活動

岩手県退職教職員協議会（盛岡地区協議会） 佐藤淳一

1. はじめに

岩手県退職教職員協議会（岩手退教協）は、県内 16 地区、約 1,800 人の会員・組織で活動をしている。

歴史的経過を少し辿ると、岩手では 1949 年（S24）に現職教職員互助会が結成されたが、次いで退職後の医療費問題解決のため 1961 年（S36）に岩手県退職教職員互助会（退教互）が結成され、1969 年（S44）には高校退職者の退教互加入も実現した。その後、1973 年（S48）に退教互が公益法人として認可されたため、日退協の結成を受けて 1974 年（S49）に岩手退教協が結成された。結成当時「老後の医療費支給・福祉厚生の実現などをめざして諸活動に取り組み、年金増額や現職の給与改善、福祉厚生の実現をはかる」という、退教互結成当初からの現退一致の運動を推進するために、公益法人では制約のある政治活動の実行組織として活動を継続してきた。

2007 年（H19）に退教互が公益法人から一般財団法人に移行するにあたって、法制度上、退教互による政治活動が可能にはなったものの、実際に退教互による政治活動・選挙取り組みを行う手立ての具体化がなされて来なかったため、昨年度まではそれをどう進めるか課題となっていた。そこで今回、退教互による主体的な政治要求・政策実現に関わる取り組みの必要性を「岩手退女教」「岩手高退連」とも共有・連携しながら、2025 年参院選に現退一致で取り組みの強化をはかることとした。

2. 退教互による政治要求・政策実現に関わる現状の整理

退教互による主体的な政治要求・政策実現に関わる取り組みの必要性について、以下のよう整理した。

- ・一般財団法人となったことによって政策実現の要請行動及びその手段としての選挙活動への参加が可能になっている。
- ・この間の制度改悪によって、年金制度や医療保険制度を含む社会保障制度が後退する状況が続いており、退教互組織の維持・発展や社会保障制度を守るためにも自立した組織として自らを守る取り組みを行う必要性が増している。
- ・2016 年度退教互盛岡地区定期総会において（当時の参院選に向けて）「会員の老後の安心安全な暮らしをさらに確かなものにするために現退一致した取り組みをし、退教協・退女教・高退連の仲間とともに候補者を応援します」と決定されているが、現在もこの方針は継承されていると考えられる。
- ・退教互の運動を維持・発展させ、強化していくために必要な「日政連を中心とした日教組・岩教組・高教組が推薦決定した候補者」に対する現退一致による支持の結集が必ずしも十分でなく、集票・得票が会員数を大きく下回る現状がある。
- ・2025 年参院選に向けて取り組みを強化していく必要が増している。

そして、上記の整理をもとに現職組織、及び「岩手退女教」「岩手高退連」とも協議しながら、2025年3月の退教互理事会で方針を決定した。

●「岩手退教協だより」第87号（2025年6月1日）の一部抜粋

3月6日の岩手県退職教職員互助会（退教互）理事会において、社会保障制度や互助制度維持の運動の取り組みとして以下の内容が決定されました。

「社会保障制度の確立と互助制度の維持・発展、及び教育条件整備の一層の充実を求めるため、構成組織の推薦する候補を推薦します。7月に行われる第27回参议院議員通常選挙では、みずおか俊一さん（日政連議員・比例区）と、横沢たかのりさん（岩手選挙区）を推薦し、現職と連携して取り組みます。」

これを受けて、「退教互として」各地区において、岩教組・高教組の各支部と連携を図りながら取り組みの推進をはかるよう通知がなされています。このことにより、今まで長年にわたって課題となってきた「退教互による組織的な政治活動が可能になる状況が実現された」こととなります。退教協にとっても長年の宿願だった課題を解決する大きな一歩となりました。今夏の参院選では、退女教や高退連、そして岩教組各支部の現職とも連携・協力しながら、退教互会員・高齢者のための福利厚生の実現、全世代が安心して生活できる社会保障制度の確立、教育の向上など私たちが願う社会の実現に向けて、政権交代をめざした選挙闘争の取り組みを進めていくことができればと思います。

3. 政治要求・政策実現に関わる退教互の取り組みについて

(1) 退教互における政治要求・政策実現のための取り組みの領域

- ①全教互や連携する退職者組織（日退協、退職者連合、高齢者問題懇談会）等が提起する社会課題解決や社会保障制度充実等に関する諸行動への参加
- ②岩教組・高教組及びその加盟組織等と連携する活動、学習会、集会などへの参加
- ③「日政連を中心とした日教組・岩教組・高教組が推薦決定した候補者」に対する現退一致による選挙活動
- ④その他

(2) 選挙における具体的な取り組み

- ①退教互の運動を充実させ、強化していくために必要な「日政連を中心とした日教組・岩教組・岩手高教組が推薦決定した候補者」に対する現退一致による支持の結集を行うため取り組みを強化する。
- ②取り組みの具体化
 - ・「日政連を中心とした日教組・岩教組・高教組が推薦決定した候補者」に関して、候補者紹介のため『退教互便り』を発行して会員全世帯に配布する。
 - ・推薦候補者への理解を深めるとともに、支持を広げるために、現職組織と連携して関連する政策制度学習会や集会等に積極的に参加する。

- ・選挙にあたって支持拡大のための電話かけの取り組みを行う際には、「岩手退教協」「岩手退女教」「岩手高退連」が協力・分担して退教互会員全世帯に電話等による依頼の取り組みができるように努力する。（＊現職組織との協力・連携も行いながら）

4. 2025 参院選取り組みの概要（流れ）

- ・ 2024 年 11 月岩手退教協地区代表者会議での提起
- ・ 2025 年 3 月各地区退教協への取り組み依頼（通知文書）
- ・ 2025 年 5 月岩手退教協総会での提起
- ・ 2025 年 6 月両教組政策制度学習会
- ・ 2025 年 7 月各地区退教協への取り組み依頼（2 回目の通知文書）
- ・ 2025 年 7 月私たちの願いをかなえる七夕集会
- ・ 2025 年 7 月水岡俊一岩手入り（2 日間，各地区対応）
- ・ 2025 年 9 月参院選に関わる各地区アンケート集約・・・・・・・・・・・・・資料
- ・ 2025 年 12 月岩手退教協地区代表者会議での総括

5. 2025 参院選取り組みの総括案（盛岡地区協議会）から一部抜粋

2025.8.26 第 3 回盛岡地区退教協選対委員会

今回の参院選では、いずれも岩教組・高教組・退教互が推薦した全国比例の「みずおか俊一」と岩手選挙区の「横沢たかのり」両候補の当選を勝ちとることができた。これも、地区退教協役員を中心とした計画・準備から実行までの丁寧な取り組みと、支部現職との「現退一致」の連携による成果だと言える。

今回長年の課題であった「退教互による推薦決定」が実現して、退教互会員に組織的に推薦候補者の支持を周知できるようになったことも大きな力になった。特に盛岡地区においては、取り組み立案から電話かけ実施まで退女教との協力・連携を進めることができ、設定した集票目標を達成することができた。

今回参院選に向けて、退教協として「岩教組・高教組が企画する政策制度学習会等への参加」「平和環境県センター主催の集会への参加」や「会員への推薦候補者の周知、支持拡大のための電話かけ」などに取り組んだが、役員を中心に協力的な行動参加をしていただき、当初の計画どおりに取り組みを実行することができた。また、取り組みの企画段階では岩手地区・紫波地区の代表にも会議に参加してもらい、その後も支部から連絡・調整をしてもらったため、支部内の各地区で連携して取り組みを進めることができた。

課題としては、特に全国比例の推薦候補者の周知・支持拡大をはかる際に、「候補者名の浸透をはかること」「政党名ではなく個人名で記載すること」などについて理解を広める難しさがあった。政策制度学習会の内容については、「退教互会員に支持を広めるためには給特法や多忙化解消など現職の問題だけでなく、物価高対策や社会保障など退職者・生活者の視点からの内容も必要ではないか」との声も聞こえた。また、「会員全体への事前や公示後の印刷物の内容や配布のしかた、時期などについて、検討・改善の必要があるのではな

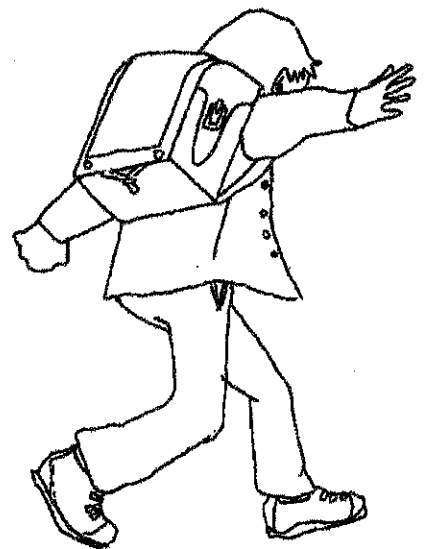
いか」という意見もあった。さらに電話かけについては、「会員名簿の精査」「電話かけの時期や時間帯の検討」も必要だと考えられる。

事実上の「政権選択選挙」と言われた今回の参院選で、全体では政権与党の自公が大幅に議席を減らす一方で立憲は横ばいとなり、国民と参政党が大幅に議席を増やす結果となった。昨年秋衆院選の結果、少数与党に転落した石破自公政権は、裏金問題等の政治不信に加えて物価高に対する有効な対策を打ち出すことができず、将来不安を抱える有権者の怒りを買うことになった。しかし、立憲をはじめ野党全体として政権を託せる国民からの信頼は得られておらず、新興の政党が既成政治に対する批判の受け皿となった。

(中略)

国民の多様な価値観を反映する多様な政党が国政に参入すること自体には意味があるが、多党化が進み対立や分断が深まるだけであれば、かえって政治への失望が広がりかねない。衆院、参院ともに少数与党となった状況の中で、政策ごとの「部分連合」を続けるのか、連立の拡大や組み替えが起こるのか注視していく必要がある。一方で、野党はまとまって政権交代をせまることができるのかどうかも含めて、国民のための政策を前進させる体制づくりが求められる。いずれにせよ、複数の中小政党が影響力を持つ多党化が進む中、政策の一致点をどう見いだしていくのか、戦後政治の大きな転換点を迎えて真の民主主義を追求する政党政治のあり方が試されている。

今後、次期衆院選に向けて政治状況を注視し、岩教組本部・支部及び退教互とも積極的に意見交流をしながら我々の願う「平和で民主的な、人権尊重を基本に安心して生活できる政治」の実現をめざして、組織の強化・拡大と学習・行動の積み重ねに取り組んでいきたいと考える。



江戸川区教職員組合 友の会 について ～現・退一致で組織の強化・拡大をめざして

東京都退職教職員協議会 飛田 邦子 平永由美子(江戸川区教組友の会)

はじめに

「夏の合宿『奥能登を訪ねて』」のレポートの前に「江戸川区教職員組合 友の会」について説明します。

1. 「友の会」の結成

2008 年、退職後組合と接点がなくなることへの不安をつぶやいた仲間の声を受け止め、「OB・OG 会」を結成して活動を開始しました。(昨年「区教組 友の会」と改称。以下、友の会) 友の会は、(1) 会員同士の親睦をおこない、(2) 社会の動きに対してできる限り社会参加することを目標に、区教組のとりくみや国会前行動、各種集会等に現・退一致で参加しています。(3) 組合員が減少し、厳しい職場状況にある現職組合員をバックアップするために、会員は准組合員として会費を納め、財政面でも支えています。再任用や会計年度任用職員等で現在も職場で働いている仲間にも呼びかけて、3～4カ月に1回程度、会を実施しています。

2. 主な活動

(1) **親睦** 発足当時は居酒屋で近況を交流。その後、会員宅を会場に親睦を深めています。催し物への参加、旅行や趣味、文化活動から社会や政治に至るまで幅広く報告・交流し、話題はつきません。また、春と秋には、都内をはじめ東京近郊に足を延ばし、桜や紅葉を楽しみながら、歴史探訪や自然観察をしています。時には、五能線に乗車したり、長野県阿智村満蒙開拓平和記念館(2019年12月)を視察したりして、交流を深めています。

(2) **区教組や東京教組の取り組みに参加**

- ①機関会議へのオブザーバー参加、教研集会等への参加 定期大会、分会代表者会議、学習会、教研集会
- ②憲法集会、さようなら原発集会をはじめとした各種集会やメーデーに参加
- ③地域の平和運動に参加 戦災犠牲者追悼式、原発犠牲者追悼式、反核キャンドルデモ、慰霊碑巡り平和行進
- ④夏の合宿への参加(2泊3日) 合宿の夜は参加者同士のレポート提案に熱く討論を交しあうのが恒例行事。
例年、他区に異動した若い現職組合員の参加があり、活気づきます。

2011年～14年 東日本大震災&東京電力福島第一原発事故フィールドワーク(以下FW)

いわき、郡山、川内、相馬等。福島県教組本部、いわき支部、郡山支部、県教組青年部と交流

2015年 千葉県館山戦争遺跡めぐり 赤山地下壕、「かにた婦人の村」、大房岬砲台、探照灯格納庫

2016年 横田基地めぐり、御岳山FW(西多摩支部と共催)

2017年 東日本大震災&原発事故FW いわき市の今を見る 講演、いわき放射能市民測定室見学

2018年 東日本大震災&原発事故FW 宮城県被災地 石巻、南三陸町、女川原発、旧大川小周辺

2019年 埼玉県丸木美術館、埼玉県平和資料館、吉見百穴(地下軍需工場跡)

2020年～22年 新型コロナ感染症者の増加や緊急事態宣言発令のために、夏の合宿は中止。

2021年、2022年度は合宿に代えて、公共施設で夏の学習会、冬の学習会を開催。

2023年 東日本大震災&原発事故FW 富岡町東電廃炉資料館、双葉町原子力災害伝承館、請戸小

2024年～25年 能登半島地震FW; 輪島、七尾、珠洲。石川県教組本部、奥能登支部、地元の方々と交流

(3) **ブログ「江戸川教育文化センター」で発信** 教育を中心に、今ある課題を問題提起し、広く意見交流します。

おわりに

2015年9月、憲法違反の安保法成立から10年。毎月国会前で行われている「19日行動」に久しぶりに参加しました。10年前12万人集まった国会前も、10年後の参加は2300人。「戦争のできる国から、戦争をする国へ」(福島瑞穂さん)の流れが加速しています。軍事費が拡大し、沖縄や南西諸島の自衛隊基地が増強され、米国をはじめ韓国などの国と大規模な軍事演習が行われています。防衛省が全国の小学校に、何と「子ども版防衛白書」を配布したとのこと。戦争がひたひたと迫って来ているようで、危機感を感じます。戦後80年、「教え子を再び戦場に送らない」ために、友の会は、仲間たちと共に取り組むことを一つずつ積み重ねていきたいと思っています。

'25 江戸川区教組 夏の合宿 “奥能登を訪ねて”

◎期 間 7月26日(土)～28日(月)

◎場 所 石川県七尾市田鶴浜仮設住宅～和倉温泉～奥能登支部～能登町～珠洲市～輪島市

◎目 的 ① 昨年度は出来なかった、地元の方々から地震当時や現在の状況について話を聞く。

② 1年半後の奥能登の学校・子ども・教育の状況及び現状と今後について学ぶ。

◎費 用 40,000円 ※レンタカー代、宿泊代、お礼等。「新高岡」までの往復交通費は除く。

◎集 合 新高岡駅 11:29 (はくたか555号到着時間)

◎解 散 新高岡駅 15:00頃 (はくたか570号16:22乗車)

※基本的に現地集合、現地解散

◎参加者 12名(組合員・組合員の家族・組合員の同僚)

◎宿泊先 和倉温泉 花ごよみ・珠洲市狼煙町 緑光旅館

◎協力者 石川県教組委員長・奥能登支部(Aさん・Bさん)・Cさん・市議(Dさん・Eさん)

◎日 程 ※上記の協力者の方々と相談しながら日程を組むことができました。感謝申し上げます。

日・曜日	場 所 ・ 内 容	備 考
26日 (土)	○新高岡駅集合 11:29 ○和倉温泉 花ごよみ 着 14:30 ○七尾市田鶴浜舟尾(ふのお)仮設住宅訪問 C自治会長の話を聞く 15:00～17:00 ○地元のスーパーで、夜の交流会用飲食物購入。 ○夕食後、夜の学習会・交流会 20:00～22:00	<イオンモールにて昼食> ※花ごよみの女将さんの計らいで、市議のDさんに、舟尾仮設住宅自治会長を紹介してもらう。 ※石川県教組のフィールドワーク(昨年度)の様子を視聴。
27日 (日)	○朝食 7:00 ○わくら朝市、和倉温泉周辺を歩く。(自由行動) ○旅館を出発 9:00 ○石川県教組奥能登支部を訪問し、話を聞く。 支部会館で昼食(弁当) ○見附島海岸で県教組委員長に紹介してもらった市議のEさんと落ち合う。 <フィールドワーク> ・見附島、飯田港、若山川沿い、大谷町、仁江海岸道の駅“すず塩田村”、垂水の滝、長橋漁港、高屋、蛸島町、災害ゴミ置き場、寺家(じけ)等 ○緑光旅館到着 18:00 ○夕食後、夜の学習会・交流会 20:00～22:00	※わくら朝市、加賀屋等大型旅館の様子を見てくる。 ※輪島市6校合同小学校Aさん宝立小・中学校Bさんの話。 ※フィールドワークの場所は、見たいものを伝え、Eさんに場所を選定してもらった。
28日 (月)	○朝食 7:00 ○緑剛崎散策 ○旅館を出発 9:00 ○白米千枚田 ○輪島朝市、輪島道の駅“ふらっと訪夢”、輪島中学校、6校合同仮設の小学校(河井小他) ○新高岡駅で解散。	※昨年度行った輪島朝市や輪島中学校の他、奥能登支部で聞いた話の場所を訪問する。

○26日～28日 フィールドワーク



○昨年度のコース:★~★

○今年度のコース

新高岡駅～和倉温泉・仮設住宅～奥能登支部～見附島・珠洲市の海岸・倒壊家屋・隆起
 場所等～禄光旅館～白米千枚田～輪島市内～新高岡駅

1. 七尾市田鶴浜の仮設住宅訪問(7/26)

○執行委員会で合宿の行き先をほぼ決め、2月頃から旅館を探した。

合宿の目的を伝え、大部屋があることと、ある程度の宿泊料金を条件にしたところ、“花ごよみ”が5月頃再開予定で女将さんが仮設住宅の自治会長を知っているとのこと。お知り合いのD市議を通じてC自治会長の話が聞けることになった。



○自治会長の話

① 2024.1.1 4時ごろ 地震発生マグニチュード7.6(暫定値)

一人暮らしで炬燵に入っていたが用事があり他の部屋に移った時、グラツときた。2回目の時に、家がつぶれるかもしれないと思い、咄嗟にテーブルの下に入った。気が付いたら屋根がなかった。炬燵の部屋にいたら押しつぶされていた。外で人の声がした。裏戸に近かったので裸足で飛び出た。振り返って見たら、家は全壊。普段いる部屋は、ぺたんこつぶれていた。何分たったか…津波が心配になり田鶴浜の学校は高台にあるので行こうと、そしたら、人がゾロゾロ歩いていて夢ではないかと思った。運動場は地割れしていて一晩体育館で過ごした。ぎゅうぎゅう詰め。たまたま親戚の人が「家に来いよ」と言ってくれた。着る物をもらって、体育館ではストーブも焚いていたがブルブル震えていた。寒いのか寒くないのか、異常な心境だった。地震とは、こういうことを言うんだと分かった。次の日から親戚の家で過ごし、3カ月後に仮設住宅に入居。一番先に、布団一つ持って誰もいない所で一人部屋に入った。入れない人もいて、1ヶ月ほどズレながら入ってきた。

② 仮設住宅生活

人が入ると、ごみは出るし駐車場など色々困って、ボランティアの人と話をしたら、「自治会を作らなければだめだよ」と言われ、相談しつつ作った。役所に話したら応援してくれた。言い出しっぺで今も会長をしている。会費は月300円。全員が払ってくれるわけではないが…。電気代(クーラーや外灯)等、市から補助が出ている。今は45世帯が入っている。田鶴浜地区の人が7割。七尾市内の他の地区からの人。時間が経つにつれ、何らかしらコミュニケーションをとるようになった。この集会室ができたのが震災1年後。役所に要望していたが、「必要なのか。まずは、住むところが大事」と言われてきた。しかし、集会室が出来てから、いろんなイベントとかやるようになって、ガラツと変わった。この地域は高齢者が多いからこの機会に…と思っている。実は、情報がなかなか入らない。入居者の氏名も役所は、なかなか出さなかった。今は、名前は代表者がもらっている。1年半経って出る人、入る人が出てきた。しかし、挨拶に来られなかったら、誰が出て誰が入ってきているか分からない。

③ これからのこと

今現在私の家は解体したが、まだ解体できていない家も多い。約6割が解体済み。能登半島は埋め立ても多く、そういう所は、砂地で「液状化現象」も多い。

この仮設住宅の土地は個人のもので、市が借りている。入居は2年契約。今は、あと1年延ばしても良いというのがあって、申請して通れば、あと1年延期できる。この地区から若い人は東京などに出ていく人も多く、老夫婦、老人が残る。若い人にとっては、仕事がないのが一番大きい。

今後は、住み慣れた所に住みたい。しかし、借金をして新しく家建てても、若い人に迷惑がかかる。公営の住宅が建ってそこに入れたらと思うが、しかし、タダではないから…。仮設住宅の費用は、電気・ガス代以外無料。お金は大きい問題で悩むところだ。

買い物は、これまで移動販売で2~3回きてもらったが、最近は来なくなった。近くに最近コンビニができた。皆さんがどうしているか、直接聞いていないので分からないが、知っている人に頼んだり車で買いに行ったり…かと。バスは1時間に1本あるかないか。病院からお迎えに来たりもしている。孤独死が一番心配。ここでは、何度か救急車が来た。本人の希望があれば、民間と提携して、水の出方等でいち早くキャッチできるようにやっていくという話も聞いている。

2025年問題として後期高齢者が増える。その時では遅いと思い、10年前に生活保護支援サポーターを育て認知症カフェを立ち上げた。週2~3日開いている。認知症カフェでは人が来ないので、田鶴浜カフェという名前にした。認知症の人が自分の出来る事をする事で認知症を遅らせる。

現在、27名のスタッフがいる。

七尾市には仮設住宅が10ヶ所あるが、たぶん今はどこも自治会があると思う。

防災リーダーは、女性の力が大きい。トイレや食事、病気対応をビシッとやってくれる。

行政の助けも必要。社会福祉協議会の人、「どうですか」と定期的に巡回してくれる。

問題を抱えていたり、ストレスを抱えていたりしてもなかなか言えない。本人も周りも気付かないうちに精神を病んで、精神を病むと身体も病んでくる。お互いに挨拶一つ声をかけるとか…つながりが一番大事だ。

★仮設住宅は、命をつなぐためになくしてはならない。しかし、命をつなぐには、心の健康が重要で、地元から離れ、友人知人と離れ、一変してしまった生活の中で、部屋にこもりがちになることで心を病み身体まで病んでいくということが、話を聞いて良く分かった。そこに、ボランティアや行政が関わることの意味の大きさを、命にかかわることだということを実感した。自治会長の活動に拍手を送りたい。

2. 和倉温泉にて(26日~27日)

①私たちは、小さな旅館“花ごよみ(今年の5月に再開)”に宿泊した。

旅館の女将さんや仲居さんの話では、小さな旅館で再開したのは5件ほど。大型旅館は建て替えるのに莫大な費用がかかるので難しいのではないかとのこと。温泉街を散策すると、解体もされないままの大型旅館が林立していた。

写真の建物は、全て修復不能で解体もできないままの大型旅館やホテル



② 仲居さんの話：震災当日のこと

大型旅館に勤めていた仲居さんの話；地震に驚愕しながらも、大勢のお客さんを高台へと案内した。何も持たず、ただ逃げることに必死で、雪がちらついていたが寒さも感じずひたすら逃げた。

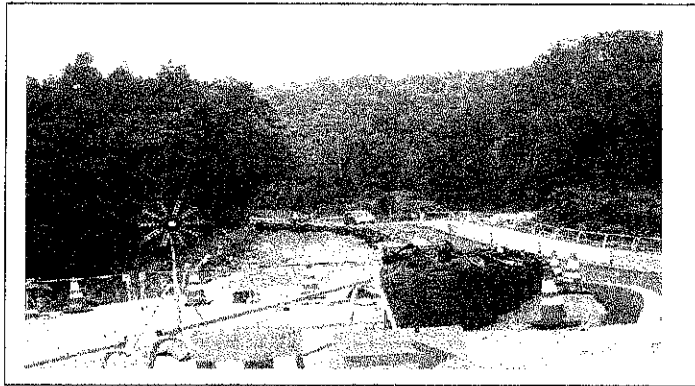
お客さんたちは、後日、車などで金沢の方へ避難された。私は自宅が被災し、仕事もなくなって避難生活をしていた。知人が、「“花ごよみ”の仲居をしないか」と声をかけてくれ働くことができた。



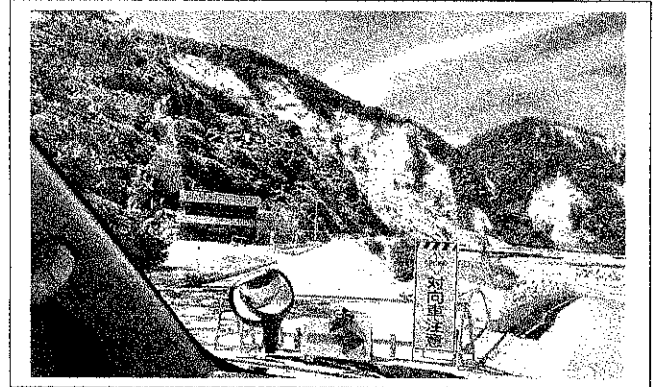
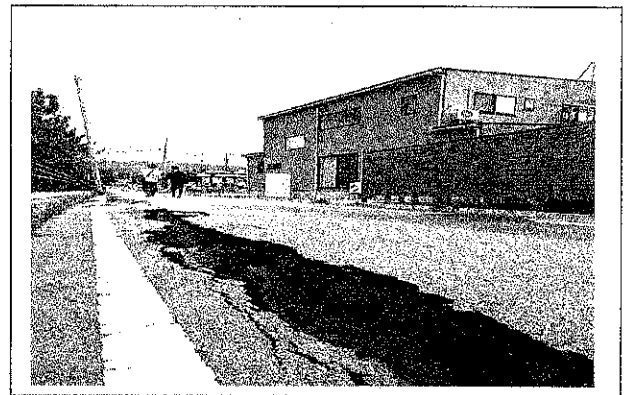
3. のと里山海道・一般道の状況(27日～28日)

○昨年度は、一般道を通るのが難しかった。やっと通った“のと里山海道”は、奥能登に行くほどに波打っていた。1年経った今年度、修復は進んでいるものの、まだ、S字に曲がったり、波打ったりしていた。

<昨年度の状態>



<今年度の状態>



★昨年度は、のと里山海道三井ICから輪島に入った。地震から7ヶ月過ぎているのに、崩れたままの家屋や瓦屋根の上(冠瓦)を青いビニールシートで覆っている家があちこちに見られた。奥能登が震源地で、海岸の隆起と道路の崩落で、船も車も近寄れず、支援に入れなかったことを物語っていた。

★今年度は、新高岡駅を出発して、能登半島を七尾から穴水を通して珠洲に入り、突端の禄光崎から輪島を通して、新高岡駅へ戻った。その過程で通った一般道やのと里山海道は、1年半経って復旧しつつあるとはいえ、写真のように道路状況は、まだあちこち復旧途上だった。

4. 石川県教組奥能登支部にて(27日)

(1) 輪島市6校合同小学校 Aさんの話(住まいは輪島)

①地震発生時の状況

1月1日の16時06分に震度5強、16時10分に震度7。

横揺れが約2分間続いた。そして、断水、停電、火事、家屋倒壊、土石流、

土砂崩れ、地割れ、隆起又は津波等。輪島の五島屋横倒し、輪島の朝市は、夜通し燃えていた。

河井小学校は、床が隆起し、机も椅子も滅茶苦茶で、棚の物は床に落ちていた。防火扉も外れていた。

1月3日、出勤できる職員は、児童や教職員の安否確認作業と片付け。私は、避難していた輪島中でトイレの汚物処理をしたが大変だった。9~12日まで取り合えず臨時休校となるとニュースで知った。

11日に今後について学校と連絡を取った。来れる人は、片付けと連絡(児童)。来れない人は、最寄りの避難所の運営補助にあたることと市教委から指示があった。17日には、職員のネット環境調査があった。23日、9時に各学級のクラスルームを運用すると保護者へ連絡。クラスルームの準備(23日は情報交換。24日の予定、お知らせ)をしながら、連絡が取れていない家庭に電話。23日は、ミートで児童と話したり課題を指示したりした。24日から原則、通常勤務となった。私は、29日から海沿いは走れないので、30分のところを1時間位かけて車で通勤した。

②学校の再開 2月1日、6校(河井、^{ふげし こうのす}鳳至、^{かわらだ みい}鶴巣、大屋、河原田、三井)合同で学校再開の話し合い。

2月6日から輪島高校(水と電気が大丈夫)で再開することになった。

そこで、急きょ各学年で集まり、可能な限り学年末に学習を終われるようにする為、担当教科を決めた。テレビ、机、椅子等は、トラックで運んだ。登校できない児童は、オンラインで学習した。

6日~8日まで午前授業。13、14日は、手配したお弁当を食べて帰る。15日から5校時までで3時に下校。教員は、朝勤務校から、輪島高校へ行き、児童が帰ったら勤務校に帰る日々を送った。

卒業式は、消防署にあるホールで2回に分けて行われた。4月1日、輪島中学校に引っ越した。

引っ越し作業と打ち合わせをして、新年度から授業をした。6校合同だが、2校(河井・大屋で各学年2クラス)と4校(^{ふげし こうのす}鳳至・^{かわらだ みい}鶴巣・川原田・三井)で各学年1クラス)に分けられた。6月から川原田小の体育館と河井小のプールが使えるようになった。移動はバス。

*要録は、転校と一時転出があり難しかった。転校なら転校先に送り、一時転出の場合は3月までの評価等の資料を送ってもらい、記入し保存する。

*輪島高校で仮住まいの時の校長は6名。輪島中の時は、2校に1人で3名の校長。仮設校舎の時も3名だったが、今年度は、2校と4校のそれぞれに校長が1名ずつで校長は2名となった。来年度からは、6校の統廃合で1校となり、校長も1名になる。

*私の担当した4年は、1クラス38人だった。部屋がない為、1学期間は2クラスを1部屋でやった。2学期に河井小に仮設小学校が建ち引っ越した。現在もそこにいる。児童の落ち着きが難しかった。環境の変化もあり、学校全体落ち着かなかった。

地震で唯一の救いは、「冬季休業中」で、児童が家族といたこと。もし、平日に起こっていたら…。

学校の被害を見る限り、もっと怪我人が出て命が失われていた可能性がある。余震が止まらない一夜を児童と過ごせるか、備蓄は十分なのか等、改めて見直すことが必要だと感じた。

(2) ^{ほうりゅう}宝立小・中学校 Bさんの話(住まいは珠洲市)

石川県では、これまでも地震が発生していて、震度5強ではさほど驚かない。その後にくた震度7の時は、しゃがんだら立てない、立ってられない状況だった。1月3日に職場と連絡が取れた。

4日からひとまず勤務して欲しいとのこと。しかし、5日から車両規制がかかり、一般車両は通れなくなった。朝早い時間帯なら7日に戻れるかもしれないと伝えた。珠洲市に戻って年休で住まいを片付け、9日から勤務した。11日からEARTH(2000年 兵庫県で立ち上げた震災・学校支援チーム)の人が入ってくださり補助学習を開始。理科室を片付けてもらった。15日、保護者に3学期の開催の案内をした。22日から午前だけの授業再開。昼食は、支援物資から子どもの分をもらって食べさせた。

29日から1日(8:30~15:30)授業を開始。

学校の設備;電気、暖房は、学校に大きめの発電機があり電線復旧まで自主電源で大丈夫だった。水は使えず、仮設トイレと給水場で。

生徒数は50%。金沢とかへ、それぞれ個人的に避難している。

輪島市、能登市、珠洲市の中学生の保護者に集団避難の案内をし、14日までに返事をもらう。

場所は、金沢市の医王山スポーツセンターへ。私のクラスの8名位、全体で100名位が避難。

養護教諭を含め教員が派遣された。3月31日に閉所。4月1日からは、それぞれの学校に戻った。

子どもと一緒に暮らした教員の話では、色々な学校から集まっていて、生活リズムも学校の時間割や規則も違って、システム化されないままスタートした。一人一人被害の状況が違い、ケアの土台も違っていた。その上、インフルエンザ等感染症の流行も重なり大変だった。

*私のクラスの8人中4人は、1週間で帰ってきた。辛くて耐えられない子もいた。

*県教委は、中学生の集団避難について、プラスとマイナスの面を集約して次に生かして欲しいが、何もやっていない。やって欲しい。

*珠洲市は、コミュニティー力になる公民館が色々ある。なので、「学校は、学校でやっていいよ」ということで、早くに学校を再開した。校舎も何とか大丈夫だった。しかし、受け入れ体制ができていなくて再開が早すぎた。

<石川県教組奥能登支部会館にて>



★震災後の教員、学校、教委…の対応について、生の声を聞かせてもらった。

地震の影響を受けた子どもたちの置かれた状況は様々で、カウンセリングの必要性を強く感じた。

集団避難においても、安全や学習面の確保だけでなく、生活リズムや心理面のケアが重要である。

自宅が倒壊した子、親族や身近な人が亡くなった子、何ごともなく無事だった子、避難所生活の子…一人一人、子どもの状態は違って、それぞれに応じたケアが必要となる。それらを含めた集団避難のあり方が問われる。難しい課題だ。学校再開後の統廃合についても同様である。地域も家庭も落ち着かない状況の中で早急過ぎないだろうか。在籍児童の減少で学習や友だち関係が希薄になることや教員配置の利便性等を考えてのことかと思われるが、日常の生活のある程度取り戻してから、地域の状況を見つつ、地域や保護者の意見を聞きつつ考えても良かったのではないかと思ったりした。

5. 奥能登フィールドワーク(27日)

○見附公園でE市議と待ち合わせ。そこから、様々な被災場所を案内してもらいながら話を聞いた。

(1)見附島

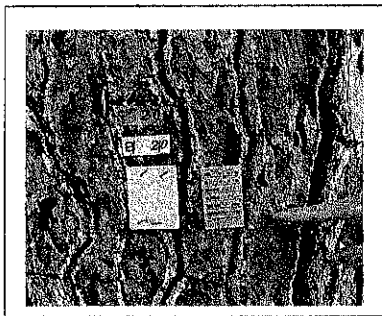


○見附島に続いていた道が沈み、見附島も崩れていた。

← <2020年ごろ>



(2) 見付公園の松の木に印してある「津波の高さ」



津波の高さ



(3) 飯田港・さいはてのキャバレー



<さいはてのキャバレー>

★津波で家がなくなり、海のそばにあった「さいはてのキャバレー」は修復不能、解体もできていない。

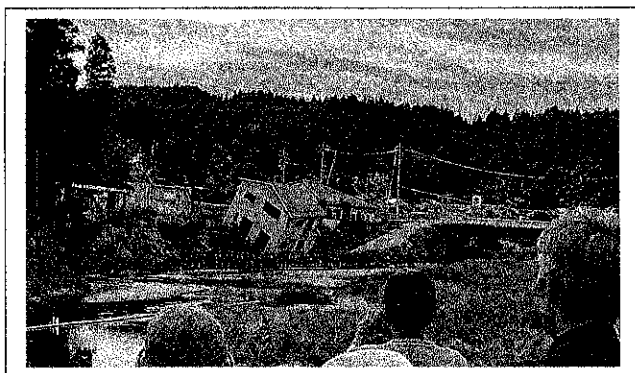
＊石川県教組委員長からの情報

かつてこの場所は、珠洲市と佐渡市を結ぶ定期船の待合場所だった。定期船は1978年に廃止されたが、『奥能登国際芸術祭2017』を機に、「さいはてのキャバレー」として生まれ変わった。

その後、定期的に奥能登国際芸術祭実行委員会主催のイベントの他、19世紀末パリで産声をあげたキャバレーのように、住民、旅行者、そして芸術家が集い、最先端の文化芸術を楽しむ交流する場所を目指しているという場所だった。(ホームページより)

(4) 奥能登地震と豪雨の爪痕

① 若山川沿い



E市議の友人で元組合員の自宅。

若山町出田(すった)辺り。畑は流されてなくなり、家は傾いて、住むことができず、解体するにも費用がかかるので、できずにいるようだ。

② 珠洲市大谷(おおたに)町願念寺・浄正寺

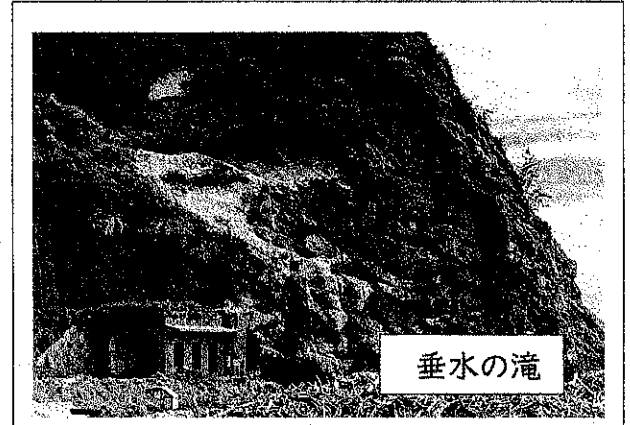


○裏山が崩れ、本堂の中に土砂が流れこんだお寺。土砂がコンクリートのようコチコチに固まっていた。この土砂を取り除かないと建物の解体はできないとのこと。しかし、人の手で取り除ける状態ではない。「同寺のある珠洲市大谷地区は、能登半島北端の海と崖に挟まれた場所に位置しており、多くの家屋と同様、御堂（みどう）もまた土砂崩れでなぎ倒された。住民の多くは門徒。信仰の支えだった住職とお寺を一瞬で失い、集落にはわずか十数人しか残っていないという。」

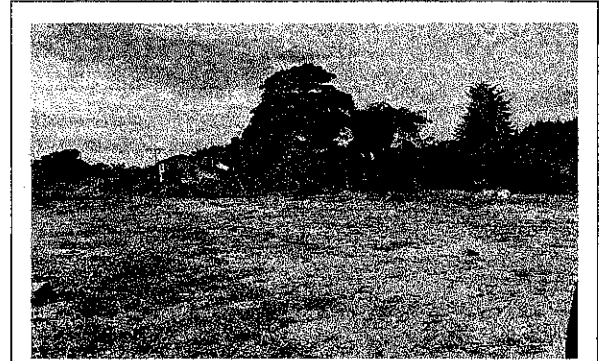
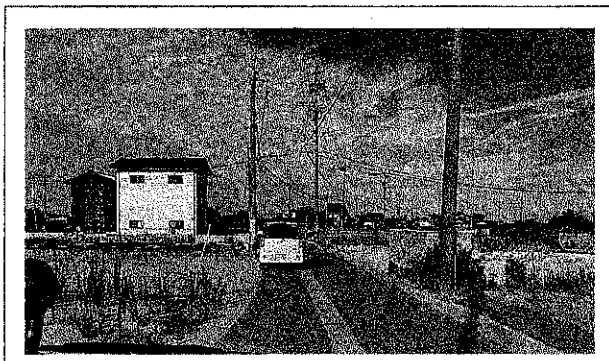
（文化時報 2024 年 2 月 20 日号の掲載記事より）

④ 「垂水（たるみ）の滝」輪島市町野町曾々木

○トンネルは、「八世乃洞門（はせのどうもん）新トンネル」。2007 年の能登半島地震後に完成したものだが、今回の地震でも被害があり、修復工事中。



⑤ 津波被害の蛸島町付近

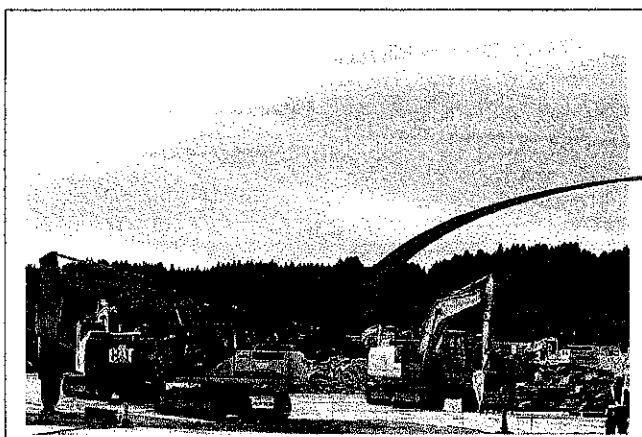


○津波で多くの住宅が被災した。申請が通れば市町が所有者に代わって解体・撤去され、ほとんどの家がなくなった町。奥の方に見える白と茶色の建物は、能登のキリコ祭りの奉灯「キリコ」を収納する収納庫。

⑥ 災害ゴミ置き場

公的に解体・撤去されたゴミの置き場。震災前は、ボーイスカウトのジャンボリーの会場だった。

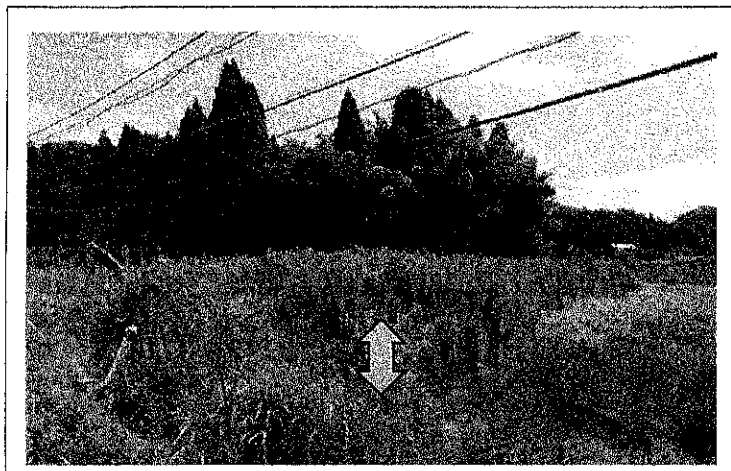
キリコ祭り



(5)地殻変動で隆起した土地

①若山町田畑を横切る断層（全長約4キロ、幅100～200m）

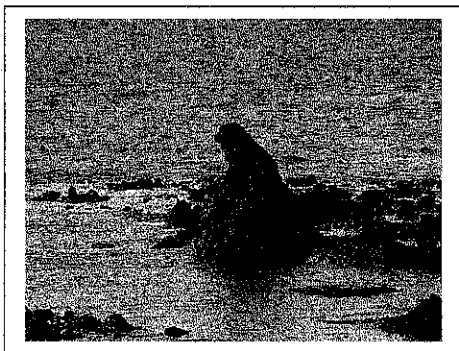
高いところでは2m隆起しているとのこと。田んぼや畑として使えなくなったところも多いそうだ。



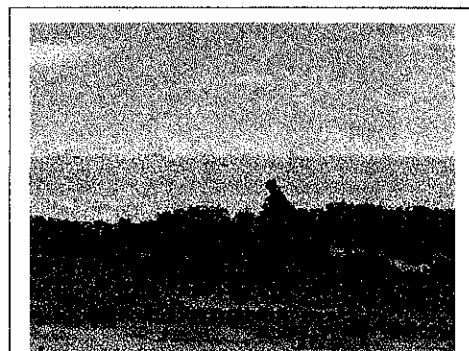
②海岸の隆起

(a)ゴジラ岩

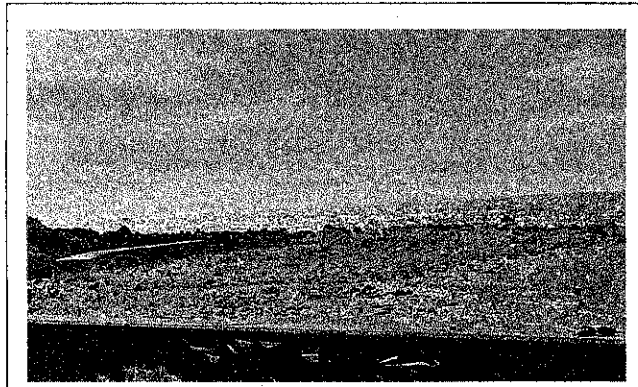
<地震前の写真>



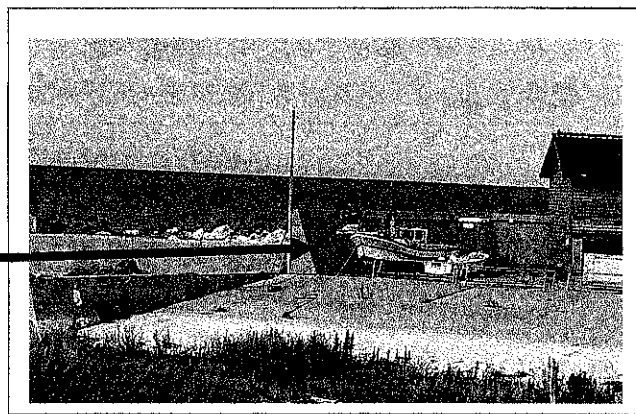
→
海岸の隆起



(b)249号線 日本海側 ○海岸の白いところが海底の隆起した箇所



(c)隆起した漁港「長橋漁港」



○ここが漁港、干上がってしまって草が生えている。○奥の方（矢印）、船が出せないままになっている。

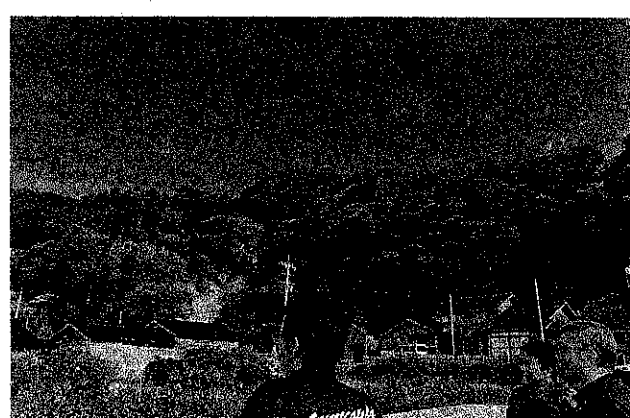
(6)道の駅「すず塩田村」で休憩

(7)珠洲市原発予定地だった高屋地区と寺家(じけ)地区

○1975 年以降、珠洲市に原発建設や原子力船関連施設に関して北陸電力や政府から働きかけが始まった。1980 年、北陸・関西・中部電力は、電力 3 社で新会社を設立し、珠洲市高屋、寺家の両地区に珠洲原子力発電所を推進する旨を表明した。珠洲市や経済界は、過疎脱却、地域振興を目的に原発の誘致を推進。国から年間 1 億8千万円余りの原発促進事業費として珠洲市に投入され、ほとんどは原発視察旅行等に使われた。敦賀原発や美浜原発への見学には、約5千人の市民も参加した。

1979 年に起きたアメリカのスリーマイル島原発事故を契機に、見学会は中断された。その他、電力会社は、タダで飲食やコンサートに招いたり、地域の祭りで使う「キリコ」の収納庫や農作物の保冷库等を建てるために多額の寄付をしたりと市民を懐柔していった。無言電話や反対派の店の不買運動等賛成反対が渦巻く中、2003 年 12 月、珠洲市住民の粘り強い反対運動で原発の計画は凍結された。能登半島地震では、陸からも海からも孤立した珠洲市に原発があったら、福島第一原発の被害どころではなかったと思われる。その原発予定地の現場を見せてもらった。

<高屋地区>

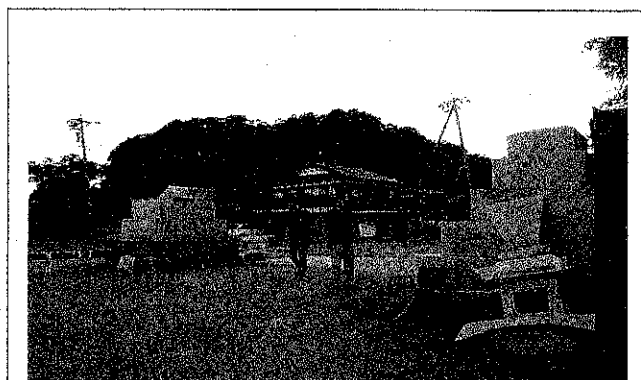


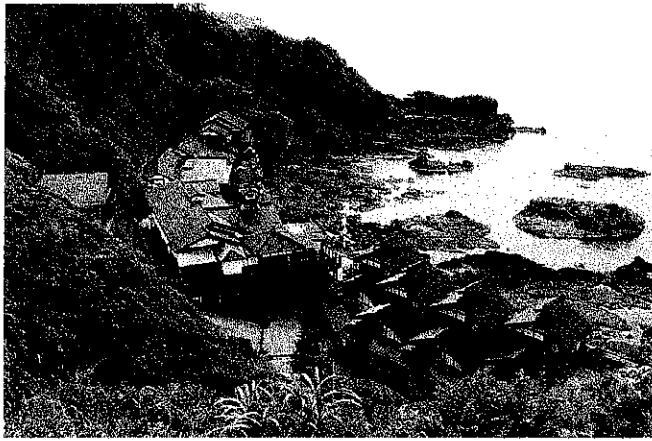
<寺家(じけ)地区>

地震直後の寺家地区



現在の珠洲市三崎町寺家「須須神社」



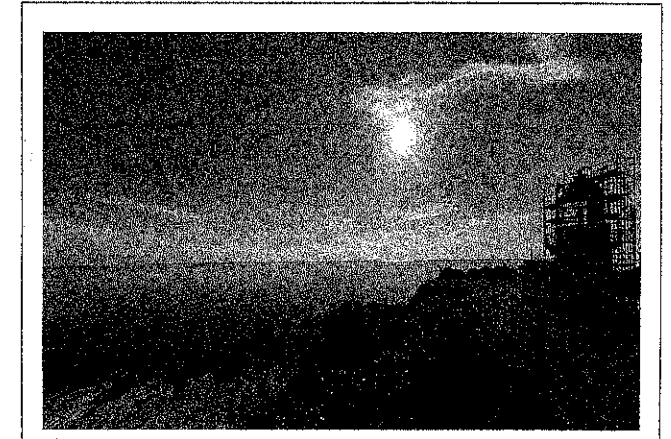
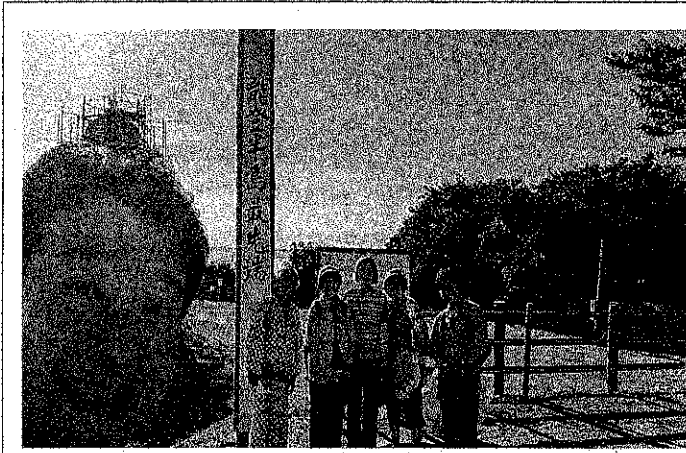


6. 奥能登フィールドワーク(28日)

(1) 能登半島先端の狼煙町禄剛崎の禄剛崎灯台(通称 狼煙の灯台)

○私たちが訪れた27日の朝、地元の皆さんによる復興の「のろし」が上げられたそう。広島発祥の「見ぬ友と心結ぶのろしリレー実行委員会」からの誘いで、全国各地で一斉にのろしをあげるイベントに参加。7月27日10:00から1時間ほど、ドラム缶で作った特性の煙突からモクモクと復興ののろしをあげたとのこと。

私たちは翌朝、禄剛崎を訪れた。



○いよいよ最終日!

★禄光旅館では、ツバメがスィーと飛んでいた。
夜、外へ出てみると、なんとベガ(おりひめ星)
・アルタイル(ひこ星)、・デネブの夏の三角形、
天の川、カシオペアも見られた。

「あ〜、このまんま寝転がりたい気分!」
しかし、夜8時から恒例の学習会。
2晩に分けて、それぞれが持ち寄った資料で、
思い思いに取り組んでいることや関心のある
ことを発表し意見交換をした。

なかなかハードだが、有意義な夜だった。

そして、朝も早くから起き出して禄剛崎を散策。緑の広場と白い灯台と青い海!!

こっちが佐渡島、こっちが韓国、こっちがロシアなどと海のず〜っと遠くを見ながら眺めた。



(2)白米(しろよね)の千枚田

棚田は、地震や豪雨による地滑りや山崩れで出来た斜面を開墾したもの。白米の千枚田は長い歴史の中で何度も土砂崩れに見舞われ耕作放棄地同然の時もあったようだ。様々な人の支援があって日本海をのぞむおよそ4ヘクタールの斜面に1000枚以上の小さな田んぼが連なる棚田となった。2001年に国の名勝になり、11年には日本で初めて世界農業遺産に指定された。

しかし、能登半島地震で全体の約8割に亀裂が入ったり、水路が壊れたりした。地震に続き、稲刈り直後の昨年9月に襲った豪雨で土砂崩れが起きるなど再び打撃を受けた。愛耕会がボランティアらの手を借りながら修復して昨年は約120枚、今年は約250枚で田植えができた。数字だけ見れば順調に復興しているように思えるが、実情は違うという。

1004枚ある田の半数余りは、市などでつくる公益財団法人「白米千枚田景勝保存協議会」が所有者から土地を借り受けるなどし、管理を愛耕会に委託。他はJAのとや個人農家、山菜組合などが耕作していた。地震を機にやめた人が多く、新たな人手の確保も難しい状態が続いているようだ。崩れた田の畔作り、田おこし、田植え、草取り、水の管理、稲刈り…米作りの仕事は1年を通してある。費用もかかる。これからも棚田を継承していく為に、ボランティア、クラウドファンディング、オーナーを求めているとのこと。



(3)輪島朝市の今

★1年前に訪ねた場所がどうなっているか、瓦礫のままなのか、復興の兆しは見えるのか等…複雑な思いで訪ねた。輪島塗の老舗「五島屋」は、解体・撤去され跡地は更地になっていた。

朝市の場所もくずれかけた建物や焼け焦げた車などは解体・撤去され、殺伐とした更地だった。

いろは橋は変わらぬまま、渡れぬ橋としてそこにあった。

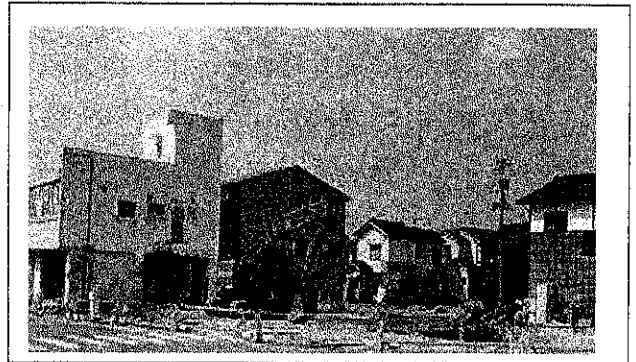
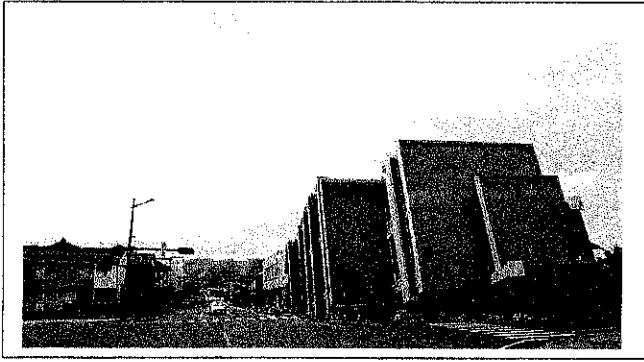
この原稿を書いている8月上旬は、石川県に線状降水帯がとどまって、至る所に雨を降らせているというニュースが流れている。輪島もそうだが、道の駅「塩田村」辺りも、また土砂崩れがあったとのこと。容赦ない自然にインフラ整備等の遅れも重なって、復興の厳しさを考えさせられた。

<昨年度撮った写真>



<今年度撮った写真>

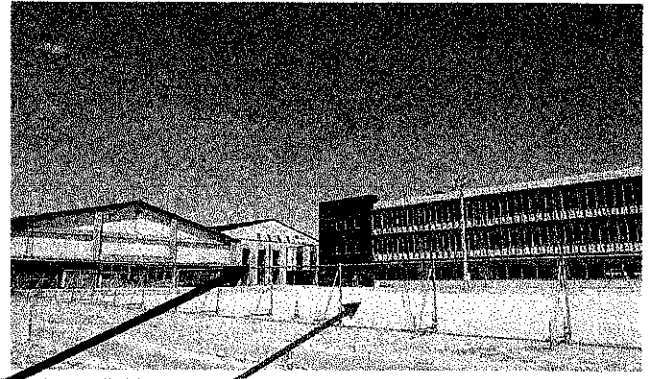




(4) 輪島中学校を訪ねて

○昨年度輪島中の校庭は、地震から8ヶ月近く経っているのに、地割れたまま丘陵地のようなだった。

<昨年度7月28日 撮影>



<今年度7月28日 撮影>

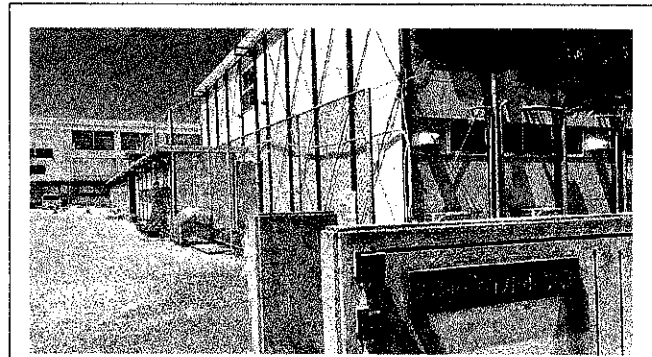
- 体育館新しい体育館
- 校庭の半分位は、平らに整備されている。
- 白いコンクリートから下は崩れたまま。

(5) 輪島市の学校を訪ねて

<輪島中学校のスクールバス>



<6校合同小学校の仮設校舎(河井小学校)>



★今回の訪問で実感したのは、能登半島地震から1年半を過ぎているが、復旧、復興までには、まだ時間がかかるということ。今年も豪雨に見舞われており、道のりは厳しく遠いものだろう。

しかし、私たちが出会った地元の方たちは、「能登をよく見て行ってね。」と、明るく元気だった。

2泊3日の合宿を通して「復興」について考えさせられた。

「生活(心も含め)の再建」、「産業・経済の再建」、「インフラ・防災の強化」の3本柱である。住民の声を聞きながら、官民が連携して行うことの大切さも話を聞いて教えられた。

私たちの今回の合宿は、観光という支援、そして能登半島の今を様々な人に伝えるという支援を担うものだと捉えました。ぜひ、みなさん、石川県特に奥能登を訪ねてみてください。